

教育シンポジウム in 東京2021

(第25回)

2020年10月、中教審初等中等教育分科会の中間まとめ「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が公表されました。副題にもある通り、個別最適な学びと協働的な学びの往還を大きく掲げ、そのための改革の方向性としてGIGAスクール構想の実現や新型コロナウイルスのような感染症を乗り越えた学びの保障等にも触れられています。

本シンポジウムでは「個別最適な学び」と「協働的な学び」をキーワードとして、第一線の講師陣に新たな学びのポイントについて、最新情報を交えながら解説いただきます。また、トークセッションでは、長年研究に取り組んでいる「指導の個別化」と「学習の個性化」の実践について発表いただく愛知県東浦町立緒川小学校の先生にも加わっていただき、「令和の日本型学校教育」が目指すものとは何なのかを掘り下げていきます。

本研究所としては初のオンライン開催となります。多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

総合プログラム

「令和の日本型学校教育」は何を目指すのか

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を中心に～

開催方法 オンデマンドによる動画配信

配信期間 3月6日(土) 10:00 ～ 3月21日(日) 20:00 (配信終了)

参加費 1,000円(税込)

・お支払いについては、クレジットカード、コンビニ払いをご利用いただけます。詳しくは本研究所ホームページにご案内がございますのでご確認ください。お申込み及びお支払いについては、お申込み手続き委託会社のサイトからのみとなります。

※お支払い後はご返金できませんので、予めご了承ください。

・お支払い完了後、お申込み時にご登録いただいたメールアドレスに視聴サイトのURLが送られてきます。配信期間内であれば、何度でも視聴ができます。

お申込み期間 2月1日(月) 10:00 ～ 3月18日(木) 20:00

この日時以前はお申込みできませんのでお気を付けてください。

お申込みのご案内



←お申込みは本研究所のホームページからアクセスをしてください。

※お申込み手続き委託先：イベントレジスト株式会社 <https://eventregist.jp/company/>

主催 公益財団法人 **中央教育研究所** (TEL: 03-5390-7488 FAX: 03-5390-7489)

後援

東京都教育委員会、神奈川県教育委員会、茨城県教育委員会、群馬県教育委員会、
埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、栃木県教育委員会、長野県教育委員会、
新潟県教育委員会、山梨県教育委員会
株式会社 時事通信社、東京教育研究所、株式会社 学習調査エデュフロント

「令和の日本型学校教育」は何を目指すのか

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を中心に～

開会挨拶	公益財団法人 中央教育研究所 所長 伊藤 育夫
基調講演 (30分)	<p>学習指導要領改訂後の中教審での議論 ～「令和の日本型教育」を中心に～</p> <p>市川 伸一 先生（東京大学名誉教授、帝京大学中学校・高等学校校長補佐）</p> <p>1953年生まれ。東京大学文学部卒業。文学博士。埼玉大学、東京工業大学、東京大学を経て、2019年3月定年退職し、現在、東京大学名誉教授、帝京大学中学校・高等学校校長補佐。2001年より、中央教育審議会教育課程部会委員として学習指導要領の改訂に関わる。専門は教育心理学。研究テーマは、認知心理学を基盤にした教育のあり方。学校や地域における個別学習支援、「教えて考えさせる授業」に基づく授業づくり、「学びのポイントラリー」による地域教育の活性化、などの教育実践活動に携わっている。</p> <p>著書に『考えることの科学—推論の認知心理学への招待』（中公新書）、『学ぶ意欲の心理学』（PHP新書）、『学力低下論争』（ちくま新書）、『勉強法が変わる本—心理学からのアドバイス』（岩波ジュニア新書）、『「教えて考えさせる授業」を創る』（図書文化社）、『勉強法の科学—心理学から学習を探る—』（岩波書店）など。</p> 
講演① (30分)	<p>深い学びへとつながる協働的な学びに向けて</p> <p>秋田 喜代美 先生（東京大学大学院教育学研究科研究科長・教育学部長、教授）</p> <p>東京大学大学院教育学研究科修了。博士（教育学）。東京大学教育学部助手、立教大学助教授を経て、1999年より東京大学勤務。中央教育審議会教育課程部会委員、同教員養成部会委員。教育再生実行会議委員。専門は、教育心理学、学校教育学、授業研究。主な著書に『学びの心理学』（左右社）、『学校教育と学習の心理学』（岩波書店）、訳書『教育のワールドクラス：21世紀の学校システムを創る』（明石書店）など。</p> 
講演② (30分)	<p>個別最適な学びの可能性と今後の課題</p> <p>奈須 正裕 先生（上智大学総合人間科学部教授）</p> <p>東京大学大学院教育学研究科修了、国立教育研究所、立教大学等を経て、2005年より現職。専門は教育方法学、教育心理学。中央教育審議会教育課程部会委員。主な著書に『「資質・能力」と学びのメカニズム』（東洋館出版社）など。</p> 
実践報告 (30分)	<p>自己学習力を高める緒川小の取組 ～週間プログラム学習オープン・タイムを通して～</p> <p>松尾 統央 先生（東浦町立緒川小学校教務主任）</p> <p>緒川小学校研究主任として赴任後、総合学習「生きる」を始めとした特色ある教育課程の推進を行う。その後、緒川小学校教務主任として緒川小学校の取組について『ポスト・コロナショックの授業づくり』奈須正裕 編著（東洋館出版）にて紹介する。</p> <p>成田 梓 先生（東浦町立緒川小学校研究主任）</p> <p>オープン・スペースのある学校である東浦町立卯ノ里小学校、緒川小学校を歴任。現在、緒川小学校研究主任として個性化教育を推進。</p> <p>今回、自己学習力を高める緒川小の取組～週間プログラム学習オープン・タイムを通してと題して、本校について紹介します。</p>  
<トークセッション> (60分)	<p>「令和の日本型学校教育」は何を目指すのか ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を中心に～</p> <p>（コーディネーター） 市川 伸一 先生</p> <p>（パネラー） 秋田 喜代美 先生、奈須 正裕 先生、松尾 統央 先生、成田 梓 先生</p>
閉会挨拶	

※時間については予定